

寒風沢研修会報告書



仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会
(略称:仙台湾運河群歴史協議会)

寒風沢研修会 報告書

目次

1. 第1部：講演会要旨	・・・・・・・・・・	1
2. 第2部：寒風沢島探訪会概要	・・・・・・・・・・	2
3. 参加者の状況	・・・・・・・・・・	3
4. 講演会参加者アンケート集計結果	・・・・・・・・・・	4

【写真説明】

表紙：御城米御蔵・御番所跡(寒風沢島)

裏表紙：白石廣造邸跡(桂島/石浜)「<https://4travel.jp/travelogue/10455630>」より

プログラム

石巻～蒲生～荒浜の中間に位置する浦戸諸島寒風沢島は、江戸時代の太平洋海運の要津です。幕府の御城米や伊達藩・米沢藩の江戸廻米の湊として栄えた寒風沢について学ぶとともに、寒風沢島を訪ねました。

令和4年10月2日(日) (開場 9:30)

👉 **第1部：講演会** (10:00～11:40) 会場:マリンゲート塩釜(3F)「マリンホール」
(塩竈市港町1-4-1 TEL 022-363-1500)

「江戸時代の寒風沢について」

講師:齋藤 善之氏(東北学院大学教授、仙台湾運河群歴史協議会顧問)

👉 **第2部：寒風沢島探訪会** (12:45～17:30)

案内:NPO法人「NPOみなとしほがま」の高橋幸三郎・三浦一泰氏

- ・「マリンゲート塩釜」で塩竈市営汽船乗り場に 12:45集合
- ・寒風沢島へ移動(13:00発～13:46着) ・島内探訪(14:00～16:20)
- ・寒風沢島からマリンゲート塩釜移動(16:38発～17:24着)解散

「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」(略称:仙台湾運河群歴史協議会)

仙台湾岸の運河群[木曳堀・御舟入堀・新堀(以上は貞山運河ともいう)、北上運河、東名運河]の正しい歴史とその地域の記憶を伝えるため令和4年5月28日に発足しました。

会員状況(8月末現在):正会員、賛助会員、その他会員(顧問) 計41名 [入会希望者歓迎]

仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会

〒983-0002 仙台市宮城野区蒲生字原屋敷30-1(吉田宅)

TEL: 090-5599-7169(吉田)

Email: sendaiwan.unga@gmail.com

仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会

「寒風沢研修会」

令和4年10月2日(日)

第1部:講演会 (10:00~11:40) 要旨

(マリンゲート塩釜・マリンホール)

「江戸時代の寒風沢について」

講師:齋藤 善之氏(東北学院大学教授、仙台湾岸運河群歴史協議会顧問)

寒風沢島の歴史、御城米御蔵などの湊関連施設及び御番所・役人、廻船問屋・宿など関係する人々の暮らしと、併せて明治時代の桂島・石浜の実業家白石廣造の事績も紹介を頂きました。

1 『寒風沢港殷賑時代の懐古』から (『塩釜市史V・資料編1』所収)

【作者】土井 兼太郎氏 (文久3(1863)年~昭和30(1955)年 行年92才)

寒風沢の船宿に生まれ、浦戸村収入役、村会議員、助役、浦戸村漁協組合長を経て、大正15年~昭和17年浦戸村村長(4期)。本資料は昭和25年頃執筆。

【内容】 ※殷賑:大変ににぎわって、盛んなさま。

- ・寒風沢港の創始:元和2(1616)年、長南和泉守(上総国長南領主)故ありて一家従類と共に海路この地に来て、寒風沢港地を埋立拡張し居住した。
- ・塩竈港は遠浅で大型船入港には不適。水深があり、風よけの島に囲まれた寒風沢水道が外港として利用された。寒風沢港は石巻・野蒜・高城・塩竈・蒲生・閑上・荒浜を結ぶ線上の中間に位置する。
- ・寛文年間(1661~1773年)、河村随賢の東廻り航路整備事業により、幕府は荒浜と寒風沢に御城米(幕府の米)蔵を建設。
- ・伊達信夫幕府領(福島)の御城米と米沢藩領の藩米の輸送経路:阿武隈川→荒浜→(小廻船)→寒風沢→(御穀船)→江戸が整備された。

・**出入りした船:御城米船**(7・8百石~2千石、江戸・浦賀の船主、特権「日の丸船印」・「御城米御用の幟」、他船への優先権)。**御穀船**(仙台藩米輸送、石巻の船主)

・**「御城米御蔵」**:間口16間×奥行4間/2棟、間口5間×奥行3間/1棟。**「御蔵方」**:役宅(旗本か御家人が下役を伴い交替駐在)。**「廻船方御用達」**:江戸・大坂の大商人。**大広庭**:米穀検査・計量、毎年初午の日に御蔵方では、村人を赤飯で接待。**御囲**:周囲は木柵設置。

- ・**「守倉稻荷」**(御囲稻荷とも):享保頃(1716~1736年)幕府が創建、社殿1間四方。
- ・**棧橋**:長7間×幅1間半/3本架設、通常橋桁のみで使用時に厚い歩み板を張る。(波浪が橋板を突き上げるため)
- ・**「御番所」**(御穀改役所):仙台藩の役所。**「津方役人」**:臨時に派遣 飯米輸送差配(御城米浦役人宅に滞在)。
- ・**「御城米浦役人」**:御城米船差配・海難事故処理・港取締、内海加兵衛(享保18年まで)→長南正八郎(明治維新)。**「締役」**:御城米役人の配下。
- ・**「廻船問屋」**:享保18年から御城米浦役人と兼帯、御城米船のほか、御穀船、諸商船などの出入りする全ての廻船を取り扱う(積荷の取扱が主)。
- ・**「回船宿」**(回船小宿とも):船頭が滞在する宿(船員は船で寝食)、粮米と船内消耗品補給、船員補充斡旋・病気手当。下船船員の乗換船・帰国等世話、土井家が享保18年から明治元年まで代々勤める、年間取扱入港船は2~3百艘。
- ・**「付船」**:入港回船を小船で迎え水先案内し曳航碇泊させる、船員が主に酒食宿泊。
- ・**「御升取」**:御城米御蔵と廻船問屋に付属した役職、米穀計量を行う、役得多し。
- ・**諸船**:**「小廻船」**:弁才型 150~300石積み、阿武隈・北上・鳴瀬の川にも入れるが主に荒浜・野蒜・石巻と寒風沢・平潟を結ぶ近距離航路に就航。**「御穀船」**:仙台藩の藩米船、弁才型 6・7百~2千石、江戸下り荷は呉服・太物・古着・綿花・酒・陶器・雑貨。**「民間商船」**:弁才型千石級、北前船(松前産海産物)、遠州の船(東北の木材)、尾張・伊勢の船(瀬戸内海産食塩)、紀州の船(灘酒)、江戸前船が最も多い。

2 『寒風沢御穀改所定』について (『塩釜市史V・資料編1』所収)

【概要】御穀改所のマニュアル 全60条の構成、作成:元禄3(1690)年、左図は文政8(1825)年作成の書

- 【内容抜粋】
- ①留物の抜け荷禁止 ・第1条 米・大豆・雑穀は「御留物」(禁制品)で他領へ移出禁止
 - ② 海難・事故処理1(役人と地元) ・第3条 御城米船の寄港地、公儀御制札の遵守、破船の際の処理、地元の者の出動義務
 - ③ 海難・事故処理2(津奉行の管轄範囲) ・第8条 宮城新湊(蒲生か)から定川まで「寒風沢御石役人衆」の管轄 等々



(次頁続く)



寒風沢港見取図(『塩釜市史』資料編口絵)

3 仙台藩『安永風土記書上』所収の「代数在之御百姓書出」について

（『塩釜市史・資料編』） ※4代以上の主だった家を書出。安永3(1774)年

- (1) 寒風澤の概況: 家数138、人口607、馬10疋、天当船8艘うち長南清八朗4艘 等
- (2) 内容抜粋: ①土井小平治家 肝入 6代相續 先祖・土井久次郎(寛永18年)・・・
⑦(長南)彦三郎(肝入) 6代相續 先祖・長南和泉守(清六)、元和年中、上総国長南と申所方當濱江・・・、和泉儀 他国より赤松の種を持参仕 近隣之嶋濱江為植候處 瑞巖寺御中興雲居和尚様より黒松之種を被下置 右兩種之松 當濱江植申候由伝候・・・ 4代・勘右衛門一5代・平八。・・・ 以上20人
- (3) 寒風澤濱の由緒百姓の勢力構成: 長南一族(6家)、内海一族(4家)、土井一族(5家)、尾形一族(3家)。全体として寛永以前に2家、寛永検地で12家、延宝検地で3家が成立。
肝入 長南一族から土井一族へ、御城米浦役人 内海一族から長南一族へ

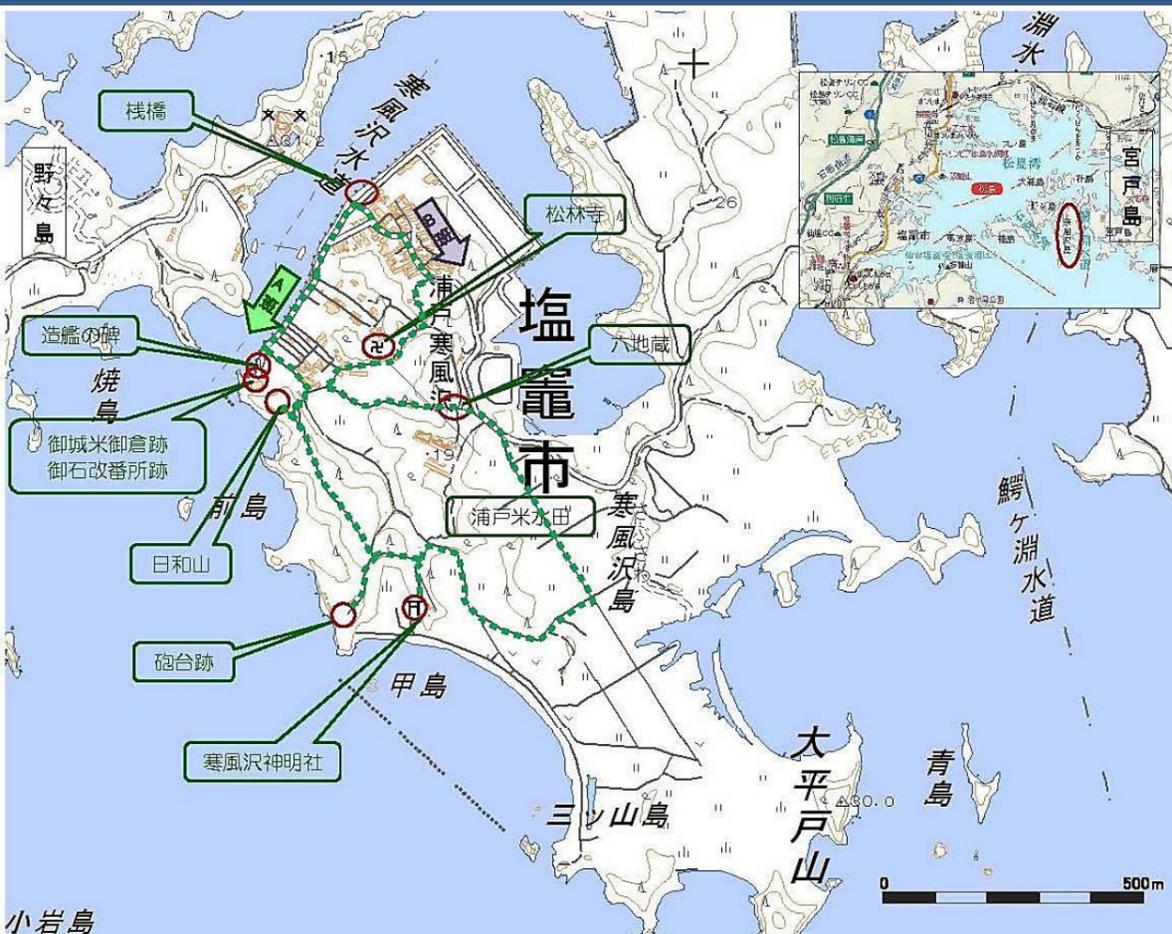
【講演会講師プロフィール】 齋藤 善之 (さいとう よしゆき)
1958年 栃木県生まれ。日本史研究者、東北学院大学経営学部教授。1981年宇都宮大学教育学部卒業。1987年早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。1995年「内海船と幕藩制市場の解体」で早大博士(文学)。日本福祉大学知多半島総合研究所嘱託研究員。2000年東北学院大学経済学部助教授、2005年経済学部教授、2011年経営学部教授、経営学部長を経て、現在に至る。
[専門] 日本近世史、海運港灣史。江戸時代の回船研究の第一人者で、東北学院大学に着任以来、奥州地方の海運調査も進めている。[著書] 『茨城県百姓一揆総合年表』(中・近世一揆研究会、1989年)、『内海船(うつみぶね)と幕藩制市場の解体』(柏書房 ポテンティア叢書、1994年)、『海の道、川の道』(山川出版社 日本史リブレット、2003年)等多数。[NPO活動] NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事長。NPO法人NPOみなとしほがま 古文書部会長。仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会顧問など

4 桂島石浜の白石廣造(しらいしこうぞう)の事績(忘れられた塩竈人)

(白石晋一著『明治の思い出 白石廣造翁の足跡』第1集・1987年7月刊)

- 【略歴】**・弘化元(1844)年武州北葛飾郡行幸村生れ(幸手市)、文久元(1861)年横浜に出て、後に英国人に英語・簿記方を学ぶ。
・明治3年廻送会社設立、翌年9月汽船康午丸船長で潜ヶ浦入港、旧仙台藩士北海道移民を移送、石浜で回漕業を始める。明治6年八戸の魚肥料を販売成功。
・明治19年北洋漁業開始。明治24年松島湾漁業組合頭就任(カキ養殖尽力)。明治27年白石商会塩竈移転(鉄道関連)。
・明治29年開盛丸新造、現ロシア極東方面でサケマス漁従事、オットセイ漁研究着手、遠洋漁業(ラッコ船)開始。明治33年オットセイ漁開始、翌年ラッコ・オットセイ漁開始。明治42年開盛丸アラスカ・シトカで拿捕、明治44年日米英露ラッコ捕獲禁止条約成立。塩竈海陸倉庫(株)設立。大正2(1913)年死去(行年70才)。
- 【事業】**①商業:海産物販売。②遠洋漁業:遠洋漁業(遠洋(オホーツク海)オットセイ漁、サケ・マス・タラ漁、(満州沿海)ニシン漁、近海:カツオ・マグロ・フカ・メヌケ・イカ漁、アラスカ・シベリア間海域。③回漕業・鉄道貨物運送取扱業。④保険会社代理店。⑤倉庫保管業・船下運送業。⑥石浜郵便局長
- 【社会貢献】**①石浜開発 ②二口越街道開削(出資) ③仙台電力会社社長 ④殖産興業(養蚕奨励、米品種改良、鯉節改良、鮪節改良、カキ繁殖) ⑤塩釜港近代化 ⑥塩竈消防組結成・初代頭取 ⑦浦戸村村長 ⑧松島湾漁業組合・組合員頭取

第2部:寒風沢島探訪会 (12:45~17:30) 概要



※マリンゲート塩竈[13:00発] ~寒風沢島[13:46着]
A班コース(B班は逆コース) 各班15名(案内者スタッフ含み) 【案内】 NPO法人「NPOみなとしほがま」
寒風沢棧橋[14:00]~(400m)~開成丸造艦の碑、御城米御蔵跡・御石改番所跡~(200m)
~日和山(しばり地蔵・十二支方角石)~(500m)~砲台跡~(400m)~寒風沢神明社[15:00]
~(浦戸米水田)~(1200m)~六地蔵~(400m)~松林寺(化粧地蔵・延命地蔵)~(500m)
~寒風沢島棧橋[16:20] [計]約4km ※寒風沢島[16:38発] ~マリンゲート塩竈[17:24着](解散)



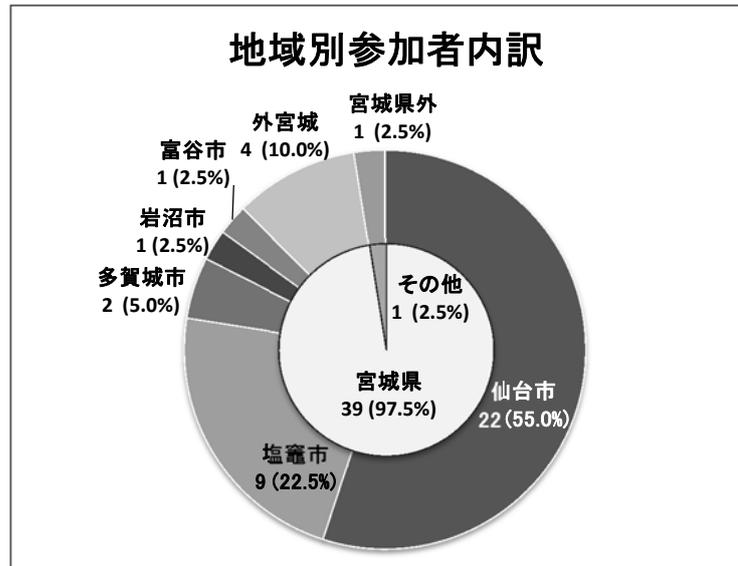
仙台湾運河群歴史協議会寒風沢研修会 参加者の状況

- 参加者の状況は、次の表及び図に示すとおりである。
- 参加者数では、第1部：講演会39名、第2部：寒風沢島探訪会30名で、計40名（延べ69名）の参加があった。
- 第1部・第2部計の地域別参加者は、宮城県内が39名（97.5%）、うち仙台市が22名（55.0%）で、開催地の塩竈市からは9名（22.5%）であった。
- 第1部：講演会は、80名募集に対して、約半数の39名の参加があった。
- また、第2部寒風沢島探訪会は、募集定員の20名を超えて、30名の参加となったことから2班編制で対応した。

とうほく街道会議第16回交流会 奥州街道・富谷宿大会 参加状況内訳

開催内容	参加者数	地域別内訳															備考
		仙台市内						宮城県内(仙台市除く)						県外:福島市			
		青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	塩竈市	多賀城市	岩沼市	富谷市	七ヶ浜町	利府町	大和町				
第1部:講演会	39	21	3	12	0	1	5	17	9	2	1	1	2	1	1	1	
会員	11	8		7			1	3		1					1	1	
その他	28	13	3	5		1	4	14	9	1	1	1	2				1
第2部:寒風沢島探訪会	30	18	3	11	0	1	3	11	5	1	1	0	2	1	1	1	
会員	9	7		7				2						1	1		
その他	21	11	3	4		1	3	9	5	1	1	0	2				1
参加者計 ※1)	40	22	3	13	0	1	5	17	9	2	1	1	2	1	1	1	

※1) 参加者計はダブルカウントなし(ネット値)。



講演会の様子

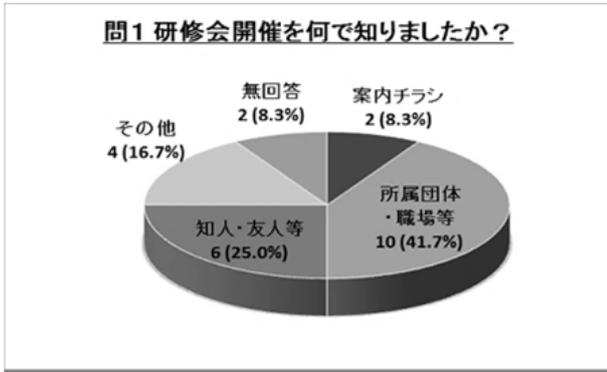


寒風沢島探訪会(島に到着)の様子

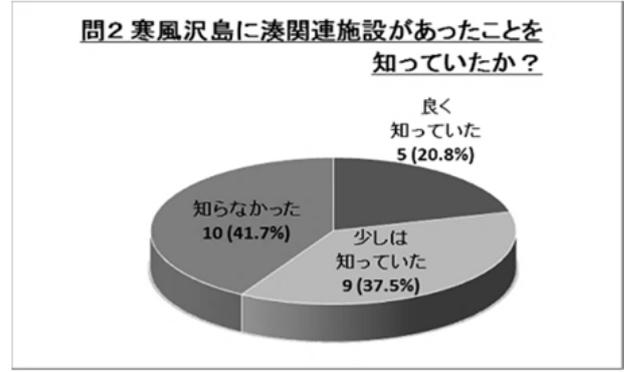
「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」寒風沢研修会／講演会 参加者アンケート集計結果

● 純参加者数： 31名 ※出演者・スタッフ含み 39名 ● 回答者数： 24名 ● 回答率： 79.5%

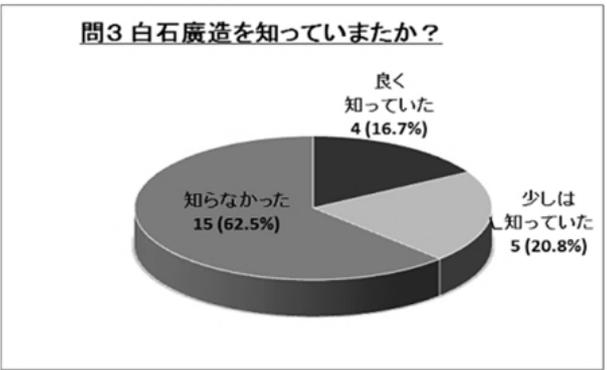
択一式回答の集計結果は下記のとおりです。自由記述回答は次頁にまとめました。



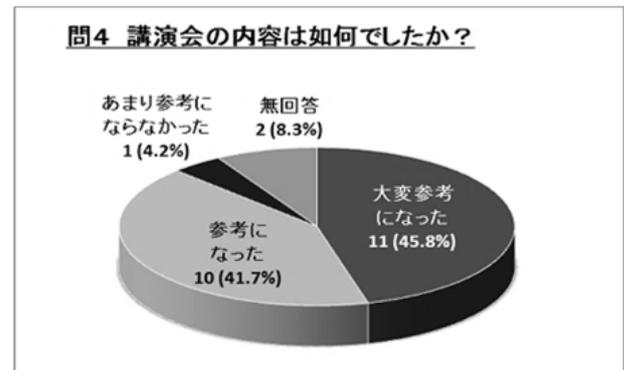
◆ 所属団体・職場等が一番多く41.7%、知人・友人が25.0%で、計66.7%であった。その他のうちフェスブックが8.3%であった。



◆ 良く知っていたが20.8%、少しは知っていたが37.5%で、計58.3%となっている。なお、うち塩竈市からの参加者7名中、良く知っているが3名、少しは知っていた2名と多い。

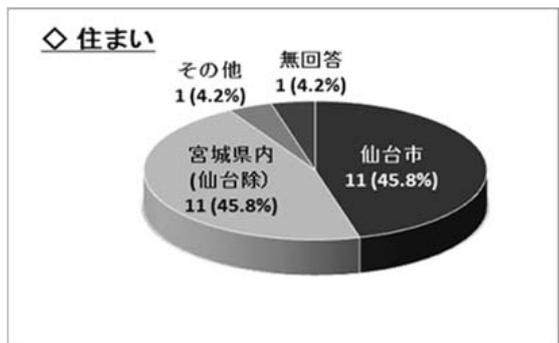
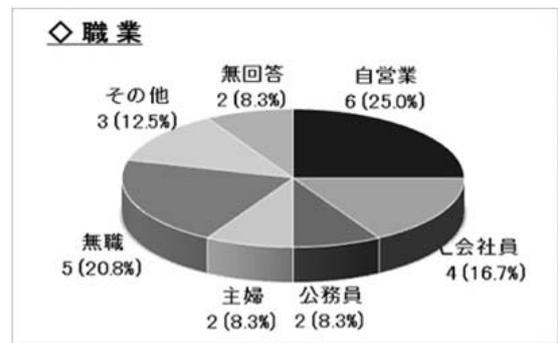
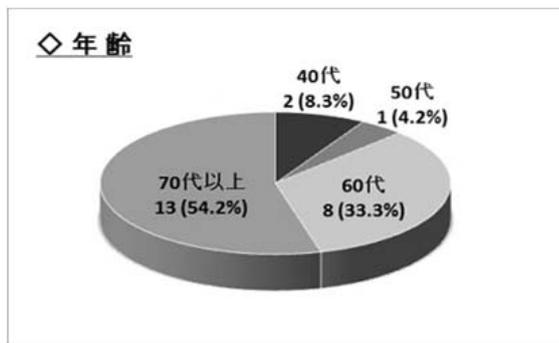


◆ 良く知っていたが16.7%、少しは知っていたが20.8%で、計37.5%と半数に満たない。なお、うち塩竈市からの参加者も他地域と差はない。



◆ 大変参考になったが45.8%、参考になったが41.7%で、計87.5%であった。

【回答者属性】



「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」寒風沢研修会／講演会参加者アンケート結果

問2、問3、問4、問5、問6、問7の自由記述

問2 寒風沢島に江戸時代の湊関連施設があったことをご存じでしたか？

・(記載なし)

問3 実業家「白石廣造」のことをご存じでしたか？

・今回、話しが聞けなくて残念だった。/次回以降の講座を楽しみしています。

問4 今日講演会の内容はいかがでしたか？

・『安永風土記書上』から見えてきた人口構成や他領からの流入や家族が見えてきて興味深かった。

・●(役?)職と4家(長南一族など)の関わりが理解出来、おもしろかったです。

・日の丸のルーツと取得物10%捨てるルールは、江戸時代のルールの流れで今も続いている事を知り感激しました。

・「ほまづ」など船事情がおもしろかった。テレビで本間さんの「おもしろ川柳」のごほうびにほまづ入れがでる。おさいふの意味がよくわかった。

・江戸時代の港(海)運の様々な規定に興味深かった。/具体的な海事法の内容が理解できた。

・知らない事に懇切丁寧な説明であった。勉強になりました。/いつも本当に勉強になる講演有り難うございました。/斎藤先生有り難うございました。

問5 今後、協議会の講演会として、どの様な内容を望みますか？

・運河群の成り立ちについて。

・木曳堀や御舟入堀の講習会の開催をお願いします。/木曳堀の開削。/蒲生の舟溜り・御蔵跡について。

・野蒜築港と東名運河、北上運河。

・貞山運河の全体像の広報＝政宗～綱宗～綱村時代(木曳堀・御舟入堀)より、明治の新堀、北上・東名運河の変遷について。

・明治の「東北開発」と塩釜・石巻の発展と貞山堀の役割。

・①白石廣造、②若宮丸船員の話。

・東北本線上野～塩釜間の明治30年開通と、北上運河・東名運河の衰退と明治政府の「東北開発」の政策評価。

・開陽丸が幕末に野々島にきたあたりのお話をいつか聞いてみたいです。

問6 本協議会の今後の活動として、講演会以外にあなたが何を望みますか？

・現地見学会(造成当時の状態が残っている場所で、出来れば公共交通利用で参加出来る所)。/歴史歩きを時々行ってほしい。/現地見学会など。

・閑上のガイドと連携し、関係市町と共同で活動を進める必要あり。

問7 仙台湾岸運河群について、歴史遺産としての価値などご自由にお書き下さい。

・『街道をゆく』(司馬氏)にもある如く、歴史遺産として価値あり、今後これを助(残?)すことが必要と思われま

す。

・豊かな自然を残しているところ。

・これ以上破壊されないことを願うのみです。

【その他:運営等】

・講話中、後ろの事務局の話し金銭線集計の音が耳障りでした。/関係スタッフの方々、講演が始まってからうるさいです、声を小さくして下さい。/講演中、受付の話し声がうるさい(前半)、気をつけて。

・今後、研修会、勉強会などがありましたらメールで連絡頂けると有り難いです。

